

「電力系統の混雑緩和のための分散型エネルギーリソース制御技術開発に向けた フィージビリティスタディ」の概要

1. 事業概要

我が国で電力系統の混雑を分散型エネルギーリソース（以下、DER）により解消するための「DERフレキシビリティ活用システム（以下、システム）」を早期に実現するための課題を抽出し、今後必要な技術開発項目と実施すべきプロジェクトを検討・整理いたします。具体的な実施内容は下記のとおりです。

- ・ 国内・海外調査
電力系統の混雑を解消するために、国の委員会等で検討が進められているノンファーム型接続^{※1}、再給電方式^{※2}等の議論動向を踏まえ、システムを適用するにあたっての制度・技術課題を整理する。なお、検討にあたっては海外事例を踏まえつつ整理する。
- ・ システム要件の整理
昨年度の調査結果を踏まえつつ、DERフレキシビリティを活用するユースケースの具体化を進め、実現にあたりシステムに求められる要件を整理する。
- ・ 今後必要な技術開発項目と実施すべきプロジェクトの整理
上記を踏まえて、今後必要な技術開発項目と、実施すべきプロジェクト（実証事業の内容、スケジュール等）の内容を具体的に検討する。

※1 平常時で電力系統の混雑が生じる場合、発電出力の制御を条件として接続を認める方法。

※2 電力系統の混雑を解消するため、混雑系統において一般送配電事業者が電源の抑制を指示し、電源抑制に伴い不足した電力を、他電源による発電にて電力の同時同量を確保する方法。

2. 期間

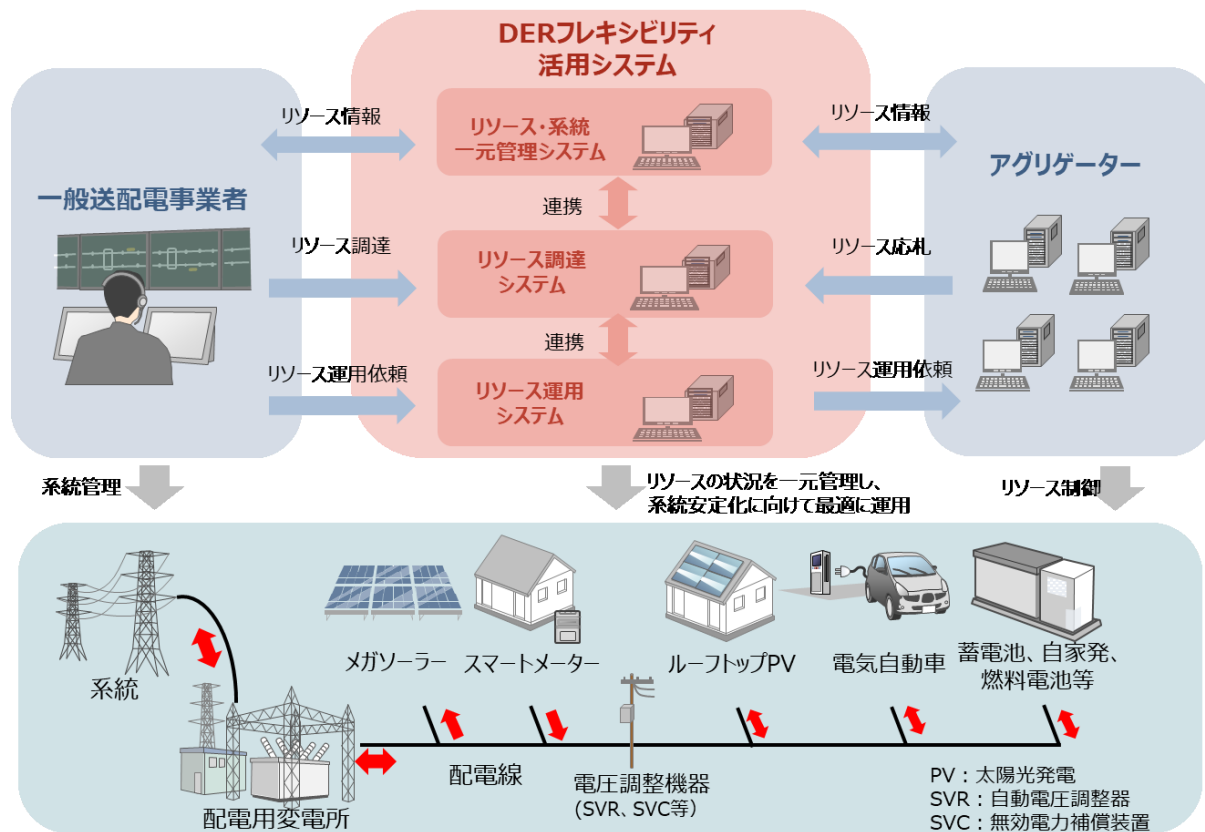
2021年7月～2022年3月（予定）

3. 実施体制

株式会社三菱総合研究所（幹事法人）
関西電力株式会社
関西電力送配電株式会社
京セラ株式会社
東京電力パワーグリッド株式会社
学校法人早稲田大学

<参考：DERの活用イメージ>

DERを一元的に管理、調達、運用するシステムを構築し、一般送配電事業者やアグリゲーター^{※3}と連携しながら、電力システムの運用と協調しDERを最適に運用する。



※3 DERを統合制御し、さまざまなエネルギーサービスを提供する事業者。